

2-4 コロナ禍の学生への食糧支援の取組

2-4-1 概要

コロナ禍で生活に困っている学生や留学生を支援しようと地域共生センターが声をかけたところ、多くの教職員をはじめ、この取組を聞かれた卒業生など諸先輩、地域の皆さん、フードバンクびわ湖さん、地元彦根市からも大きな支援を頂いた。

また、年度後半には地域の農業法人さんのご協力で規格外で出荷できない農産物などを頂き、多くの学生に配布した。このことは SDGs の推進に取り組んでいる本学としても、SDGs のターゲットの一つである食品ロス削減につながるものであり、令和3年度も引き続き取り組んでいる。

2-4-2 教職員等の寄付による支援

令和2年度前期は新型コロナウイルス感染症の拡大で全国的に緊急事態宣言の発令がなされ、外出自粛などの影響でアルバイト収入に依存する多くの学生が生活面で厳しい状況となった。

このため、令和2年5月に地域共生センターが主体となって学生支援のため、教職員に対してお米や食糧品の支援を呼び掛けたところ、多くの教職員をはじめ、この取組を聞かれた卒業生など諸先輩、地域の皆さん、フードバンクびわ湖さん、地元彦根市などから多くの支援を頂いた。6月から8月にかけて計5回実施した食糧支援の結果、支援を受けた学生は延べ983名、配布した食糧は精米1,960kg、缶詰1,220個、レトルトカレー955個、パスタソース676個、味噌600個、乾麺444個、インスタントラーメン362個、レトルト丼302個、カレールー300個のほか備蓄用のわかめご飯等700個、玉ねぎ160kg、地元産のじゃがいも120kgなど多くの支援ができた。

配布にあたっては、廣川学長をはじめ教職員から、学生に対して勉強や生活の様子を聞くなど声をかけ、学生からは「ありがとうございます。」「助かります。」と感

謝の気持ちで受けて取ってくれた。

一方で、学生からは「自分の部屋にずっといる。」「友達ができない。」「友達と会えない。」「講義の課題レポートが多くて大変。」「モチベーションが上がらない。」「アルバイト収入が減って厳しい。」などといった不安の声が多く聞かれた。これらの状況を学内で共有するとともに、学生には悩みは一人で抱え込まず大学の相談窓口（一覧表を配布）への相談を勧め、サークルや近江楽座のホームページなどを案内した。



廣川学長からの配布



地域共生センター鶴飼准教授からの配布



第1回支援食糧品



配布した 2kg 米袋



一回り大きなブロッコリーの配布

2-4-3 県大フードロス削減アクション -規格外野菜配布による支援の取組-



令和 2 年度前期の食糧支援のアンケートで学生から「支援はありがたいが、見た目が悪くて販売ず廃棄されるような農産物などがあれば配布頂きたい。」などの声を受け、地域の農業法人に協力をお願いしたところ、玉ねぎ、キャベツ、ブロッコリーの規格外のものを無償で多数いただき、希望する学生に配布した。

配布は令和 2 年 11 月から 12 月にかけて計 4 回取り組み、受け取った学生は延べ 584 人、配布した野菜の総重量は約 430kg となった。なお、令和 3 年 1 月中旬から大学は再び遠隔授業となったため取組はいったん中断し、同年 4 月からの新学期に再開した。

この取組は、今なお生活に困っている学生の支援になることはもちろん、市場出荷規格外のためその多くが捨てられることとなる農産物を学生に配布することで、SDGs のターゲットの一つ食品ロス削減につなげるとともに、学生の食品ロス削減への意識向上や地域やそこで営まれている農業への愛着を醸成することに繋がるものと言える。



大きなキャベツをカットして配布